

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

長野県上田市

○学校名

上田市立東塩田小学校

○学校のURL

<http://www.school.unic.jp/higashishioda/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】10学級（学年1～2学級）【特別支援学級】3学級【合計】13学級

○児童生徒数

【全児童生徒数】264人（平成27年11月1日現在）
（内訳：1年32人、2年48人、3年34人、4年50人、5年53人、6年47人）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

平成26・27年度人権教育研究推進事業人権教育研究指定校

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

かしこく やさしく たくましく

【人権教育に関する目標】

自分の尊さを知り、人権問題を自分自身の課題としてとらえ、差別に気づき、差別を許さず、差別に立ち向かい、差別をなくすために行動できる子供

○人権教育に係る取組一口メモ

人権同和教育を基盤とした子供にとっても教師にとってもみんなにやさしい学校作り

○人権教育にかかる取組の全体概要

【研究テーマ】

自分もまわりの人も大切だという意識を高められる支援・指導の在り方

【研究の重点】

人権同和教育を基盤とした学級・学校作り

～みんなにやさしい学校・よりよい集団の育成を目指して～

3. 特色ある実践事例の内容

1 研究テーマ設定の理由

我々教師は、子供たちが「学校に来てよかった」「今日一日楽しかった」「このクラス（学校）がすき」という思いで毎日が送れるように、環境や授業、子供同士のつながりを工夫しながらクラス作りに励んでいる。

しかし人権教育を根本にすえた多くの学びがえられるような「よりよい集団」を作ろうとする意識は高いのだが、子供のよいところに目がいかず、気になるところばかりに目がいつてしまったり、熱意を持って一生懸命に対応しているつもりなのに空回りしてしまったりすることもある。また、見ているつもりでも実は子供のことが見えていないなど、教師側の課題が見えてきた。

そこで、改めて、人権同和教育を基盤とした学級作りに必要なことを実践し、「振り返り」ながら、子供にとっても教師にとっても学校が楽しく多くのことを学ぶ場所となり、「みんなにやさしい学校」「よりよい集団」を目指していきたいと考え、本テーマを設定した。

2 研究内容

昨年度までの研究では、児童一人一人をしっかりと見つめ集団を育てること、一人一公開授業を通して授業を見合い、情報を共有し、授業改善に役立てることを大事にしてきた。

これまでつみ上げてきた研究をもとにして、本年度は、次のような三点に研究内容の重点を置くことにした。

- 位置づけたい児童を中核にすえていくこと
- だれにでもわかりやすい学習にしていけること
- 次はどうしたらよいのか考える話し合いをしていくこと

(1) 「児童支援シート」の活用

集団で生活しているからこそ生まれるマイナス面に直面する児童の様子を考え、「気になる子」というとらえ方ではなく、「光をあてたい児童」として、授業改善の中核にすえるようにした。

そして、これまで校内で使ってきた生徒指導上等の困難さを持っている児童の資料名を「児童支援シート」という名称に変更し、児童の

実態を的確にとらえ、その実態に合わせた手立てを講じたいと考えた。また、学期ごとに振り返り、次学期・次年度の修正をしていくようにした。

「児童支援シート」を活用し、いま光をあてたい児童を中核にすえて、家庭や地域等の背景も含めて児童を理解し、一人一人が認められ、それぞれがつながる

位置づけたい児童を中核にすえていくこと

読みたい図書 記入シート

学年

主 題 年 組	具体的な取り組み		1学期振り返り	2学期振り返り	3学期振り返り
	業種	手段等	次学期の修正案	次学期の修正案	次年度への見直し等
主 題					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					
年 組					

2) 「授業振り返りシート」の活用 だれにでもわかりやすい学習にしていこう

[illegible]

- 教科及び場面
- 本時の主眼
(クラスへの担任の願いも)
- 位置づけたい児童
- 児童の見取り、メッセージ (空欄)
- 今後の手だて (空欄)
- 教師の人権感覚の見返し (空欄)

(3) **ホワイトボードミーティング** 次はどうしたらよいか考える話合い

The diagram illustrates the structure of the Japanese political system with the following components and relationships:

- Emperor (天皇):** Located at the top, with the note "天皇は国を統治する" (The Emperor rules the country).
- Diet (国会):** Below the Emperor, consisting of:
 - House of Representatives (衆議院):** "議員は4年任期" (Members have a 4-year term).
 - House of Lords (参議院):** "議員は6年任期" (Members have a 6-year term).
- Executive (行政):** Below the Diet, including:
 - Prime Minister (総理大臣):** "内閣を組織する" (Organizes the cabinet).
 - Cabinet (内閣):** "内閣は衆議院に責任を負う" (The cabinet is responsible to the House of Representatives).
- Judiciary (司法):** Below the Executive, including:
 - Supreme Court (最高裁判所):** "裁判官は8年任期" (Judges have an 8-year term).
 - Lower Courts (下級裁判所):** "裁判官は10年任期" (Judges have a 10-year term).
- Relationships:**
 - Arrows point from the Emperor to the Diet and Executive.
 - Arrows point from the Diet to the Executive.
 - Arrows point from the Executive to the Judiciary.
 - Arrows point from the Judiciary back to the Executive.

ホワイトボードミーティングにより、何のために（ゴール）と誰のために（エンドユーザー）を最優先に考えて中長期的な目標を持ちながら、効果的な「次の一手」を考えるようにした。出てきた情報は黒、できそうなことは赤、取り組むことや具体的なプランは青でファシリテーターがまとめていく。少人数で、話し合いを可視化することで、意見を出しやすくしたり、深めたりしながら、次はどうしたらよいのかを効果的に話し合えるようになってき

ている。教師による授業研究会の他、学級での子供たちの話合いの活動にも取り入れている。

4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

5. 実践事例の実績、実施による効果において記してあるため、ここでは省略。

5. 実践事例の実績、実施による効果

◆ 自分だけでなく、友達の考えのよさにも気づきながら学習していった取組

〈2年生：生活科〉

○ 小单元名 手作りあそびのお店に1年生をよぼう

○ 取組（单元）のねらい

1年生にお客さんに来てもらおうという願いを持った児童が、お店の準備をする場面で、お店屋さん役をやったり、お客さん役をやったりし合うことを通して、1年生にも楽しんでもらえるにはどうしたらいいか考えたり、工夫したりすることができる。



○ 取組（单元）の内容

- (1) 前時に話し合ったことを思い出し、違うグループからのアドバイスをもとにグループごとに確認する。どこをどうしたいのか、グループで発表し、本時の学習問題を確かめる。
- (2) 話し合ったことをもとに1年生に楽しんでもらえるように、分かりやすいルールややり方の工夫をグループごとに確かめる。お客さん役とお店屋さん役に分かれて準備をし、友達の考えや工夫の良さに気づき、認め合う。
- (3) 各グループの工夫を発表する。工夫や考えの良さを認め、次時への意欲を持つ。

○ 実施する際に生じた課題及びその解決策（課題、課題が生じた背景）

本時、光をあてたいT児は、「勝てない、1番でない、思うようにできない」などの困難点があると物に当たるなどしてしまうことがある。自分が主役になりたい気持ちが先立ってしまい、自分以外の児童の考えの良さや工夫に目が向いていないことが背景と考えられる。

（課題に対する対応）

児童支援シートなどから見えてきた遊ぶことが大好きで、ものづくりが好きなT児の姿をもとに、1年生をお店によんで遊んでもらうという状況を設定し、意欲的に活動に参加したり、グループの友達と協力したりしながら準備する場面を設定することで、T児が積極的に考えを伝え合ったり、認め合ったりする姿へとつながるのではないかと考えた。更にお店ができた後、お客さん役とお店屋さん役の役割分担をして練習する中で、お互いの工夫したところがわかりやすくなる

ように配慮をした。

○ 実践事例の実績、実施による効果

(1) 他のグループからもらったアドバイスをもとに工夫していた児童

他のグループを招いて体験しあう場面で、「射的」グループでは、1年生のために狙う距離を短くする工夫をしていた。T児のいる「わりばしロケット」グループでは、グループの友達と相談して「折り紙のプレゼントをすると喜んでもらえる」と考え、プレゼント作りの活動に発展していった。来てくれた1年生の名前を書く紙を用意して自分たちのお店が好評だったかどうか分かるように工夫したグループもあった。

(2) 役割分担を通して、具体的な動きをつかむことができた児童

お客さん役とお店屋さん役を決めて練習する場面で、T児は隣の射的グループのお客さん役として参加し、友達と楽しく活動する姿が見られた。活動の中では、T児が中心になって的の配置や並べ方を工夫する姿も見られた。そんな中、紙コップを拾って積み上げる活動をずっと続けているE児の存在に、参観をしていたある教師が気づいた。E児は一度もお客さん役をやらずに「おいしい!」「次、がんばって!」など、お客さん役の友達が楽しめるような声がけを続けていた。そんなコップを拾い続けるE児の姿を見て、授業の終わりではT児がE児に近付き、一緒にコップを拾ったり、一緒に並べ方を工夫したりするなど、自ら関わろうとする姿が見られた。これらの姿は「授業振り返りシート」にて、参観していた教師がとらえたT児とE児の姿である。このE児やT児の姿から、実際の活動では1年生にどう声がけをしていくのがよいのか、E児の具体的な声がけの良さやT児の友達と協力しながら、お客さんが楽しめるようにと工夫する姿から、具体的な動きだけではなく、関わり方のよさにも気づくことへとつながった。

(3) 1年生の気持ちに寄り添う活動ができた児童

来てくれた1年生のためにプレゼントを用意しようと考えたK児は、1年担任のところにいき、1年生の人数を確かめることをしていた。男女の人数も聞き、相手の好みにも合わせてあげるプレゼントも違うものにしていこうと工夫をしていた。

(取組が効果を上げた実際の事例)

学習感想用紙には、「1年生ができるように工夫できた。」「楽しくできるように考えられた。」「友達に認めてもらえてうれしかった。」などが記入されていた。自分が楽しむばかりではなく、友達の良さにも気づくきっかけにもなっていた。また、お互いに見合うことで、1年生の気持ちに寄り添って具体的に考えられた。その後、1年生をよぶ活動をしたが、どのお店にも1年生がたくさん集まり、児童は意欲的に活動することができた。

6. 実践事例についての評価

(取組についての評価、及びそう評価する理由)

(1)「児童支援シート」をもとに位置づけたい児童の良さを教師も新たに確認することができ、その良さをどこで生かすかを考えることができた。2年生の事例では友達と遊んだり、ものを作ったりすることが好きなT児を生かせるように、図工の時間や生活科の時間にT児の得意なことを生かして友達と関わる活動を位置付けた。このことは、T児が活動に対して意欲的に参加したり、アイデアや工夫を友達から認められたりすることにつながった。

(2)「授業振り返りシート」をもとに、複数の教師で授業を見合うことにより、児童を多面的にとらえることができた。T児の姿を参観していた教師が、自ら射的をせずに活動の間中もずっとコップを拾っていたE児に気づいた。一見、活動に対して消極的にも見えたE児は、実はお客さん役の友達を楽しませるために、励ましの声をかけ続けていたことがわかった。そんなE児にT児は自ら近づき、一緒にコップを拾ったり、的を工夫したりする姿が見られた。担任は、2人の関わりや具体的な姿を「授業振り返りシート」によって知ることができ、T児だけではなく、E児の思いや活動の良さにも思いを寄せることができた。

(3)「ホワイトボードミーティング」では、参観した教師が見とどけたT児の具体的な姿を職員で共有し、知恵を出し合ながら「次の一手」を共に考えることができた。「自分たちが楽しむことを優先し、1年生を楽しませるとは具体的にどのようなしたらよいかわからない」という意識の児童たちに、E児やT児のお客さん役の児童への接し方を紹介したり、思いを語らせたりすることで、活動を肯定的に良い方向へと導くことができた。

今後は自ら友達との関わりを始めたT児が、他教科や他の活動場面でも友達との関わりを広げていけるよう、またT児以外の児童もそれぞれがつながる学級集団になっていけるような効果的な「次の一手」を考えていきたい。

教師は、子供の日頃の生活態度で、一面的な見方をしがちであるが、子供の良い姿を見るようにする視点を大事にしていきたい。特に、個に光をあてることで集団の育ちを見ることができたので、今後も職員集団という多くの目で、フラットに、かつ多面的に子供たちを見つめ、とらえていく必要性を感じた。

(保護者や地域住民からの反応)

授業を参観された保護者の皆さんから「以前より積極的になってきた」「子供たちのファシリテーションの質の高さに驚いた」「子供たちが育ってきている」などの感想をお寄せいただいた。

(現在、実施に当たって課題と感じていること)

クラスが安心安全であることで、生活への意欲、また学習への意欲も高まる。常に子供を真に見つめ、教師自身を見返しよりより集団作りを目指していきたい。また、子供の中にある答えを真摯に受け止められる教師であり続けたい。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

上田市立東塩田小学校

児童一人一人をしっかりと見つめ、集団を育てること、授業改善をすることで「みんなにやさしい学校・よりよい集団」づくりができると考え、研究を進めてきている。重点とする研究内容を明確にし、「児童支援シート」「授業振り返りシート」の活用と「ホワイトボードミーティング」を取り入れた事例である。「児童支援シート」を活用することで児童の実態を的確にとらえ、その実態に即した支援や、児童の良さを生かせる場面を考えることができる。「授業振り返りシート」の活用により、授業者と参観した複数の教師が、一人一人の児童を多面的に理解し、良さも見つけることができ、授業改善と教師の人権感覚向上につながっている。「ホワイトボードミーティング」では、意見の広がりや深まりを確認しながら効果的な話し合いができ、次につながる取組が身近なものとして捉えることができる。学校全体での取組として参考になる事例である。